

地域の情報

学校における健康管理に関する
「地域連携コモンズ」の形成に向けた取組

大庭重治*・境原三津夫**・笠原芳隆*・八島 猛*・佐藤将朗*・
増井 晃*・上野光博*・野口孝則*・留目宏美*・池川茂樹*・
加藤喜美江*・猪又智子*・室橋由貴*・平澤則子**・高柳智子**・
中島通子**・大久保明子**・永吉雅人**・渡辺 弘**・大日向仁代***・
足田真智子****・中川未森****・佐々木壮太*****・土屋史子*****

1 研究の目的と意義

地域にある小中学校等の学級には、特有の身体特性のある子ども、アレルギーのある子ども、服薬に伴う副作用に対する配慮が必要な子どもなど、健康管理に特別な配慮が必要な子どもが数多く在籍している。本稿において紹介する研究は、上越教育大学と新潟県立看護大学の協働を基盤として、このような健康管理に特別な配慮が必要な子どもたちを担当する学級担任や養護教諭を支援するために、地域における連携システムとして「地域連携コモンズ」を試行的に形成することを目的としている。この研究の構想内容と、これまでの進捗状況について以下に紹介する。

地域連携コモンズは、上越地域にあるふたつの大学と、地域の学校、教育委員会等が連携して活動するための拠点である。コモンズに関わる地域の関係者が互いに顔見知りになることにより、学校において生じる様々な支援課題に対して、エビデンスを持って迅速に対応できる専門家集団を形成することができる。本研究を上越地域において実施することの意義は次のような点にある。

- ①健康管理に特別な配慮を必要とする子どもたちに、学校における安心安全な生活環境を提供することができる。
- ②健康管理に関する教育実践の問題を明らかにし、特別に配慮すべき内容を具体的に提案することができる。
- ③学級担任及び学級担任を身近で支える養護教諭が、健康管理に関して気軽に相談できる仲間や支援事例にアクセスすることを可能とするコモンズを新たに形成することができる。
- ④上越地域に潜在する子どもの健康管理に関する研究シーズを掘り起こし、それらを学校現場において活用することができる。

2 地域連携コモンズの形成に向けた体制づくり

学齢期の子どもの健康管理には、教育、医療、看護等に関する

多様な専門的知識が求められる。本研究の特色は、上越地域において活躍するこれらの領域の専門家による研究者集団を形成し、連携協定締結大学、附属学校園、地域の学校及び教育委員会の密接な連携に基づく活動を通して、健康管理に特別な配慮を必要とする子どもを担当している学級担任や養護教諭を支援するための「地域連携コモンズ」の形成を試みる点にある。

図1にその概要を示す。上越教育大学と新潟県立看護大学は、2010年7月に包括的な連携・協力に関する協定書を交わし、その連携・協力事項として、研究の推進と交流や地域貢献などを掲げている。本研究には、上越教育大学において障害児心理学、障害児指導法、学校精神保健、学校保健、栄養教育、養護学、内科学を専門とする教員と、新潟県立看護大学において産科婦人科学、地域看護学、成人看護学、母性看護学、小児看護学、社会福祉学、情報科学を専門とする教員が参画している。また、上越教育大学附属学校園の養護教諭や、地元自治体において養護教育に関する教育行政を担当する指導主事、地域の特別支援学校の養護教諭なども参画している。このような人材が、コモンズにおいて、①それぞれの専門に関する情報の共有、②新たな情報の収集、③情報の発信、④特定のテーマに関する共同研究等を推進することにより、大学や地域の学校、自治体に蓄積されている健康管理に関する研究シーズを、地域の学校のニーズに応じて有効に活用できるようになる。

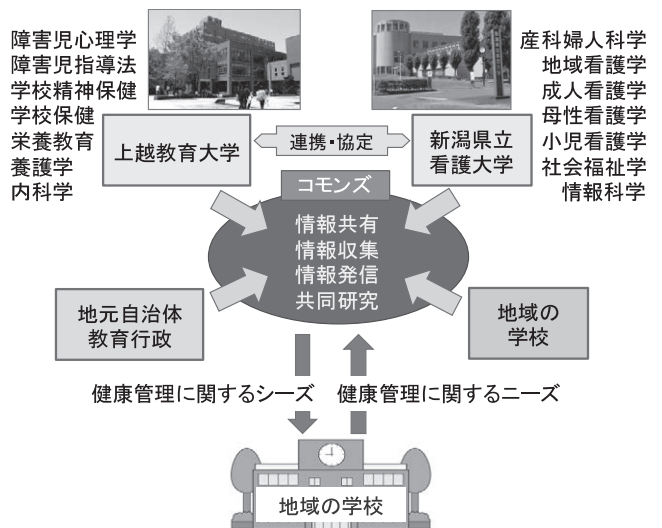


図1 健康管理に関する「地域連携コモンズ」の概要

* 上越教育大学
** 新潟県立看護大学
*** 上越市教育委員会
**** 新潟県立高田特別支援学校
***** 上越教育大学大学院

本研究の推進により、次のような成果が期待されている。

- ①健康管理に関する従来の研究・実践成果を共有する機会が提供される。
- ②上越地域において子どもの健康管理に関する共通性が形成され、継続的に活用される。
- ③学校における健康管理に関する地域のニーズが明確化され、整理・提案される。
- ④子どもの健康管理における特別な配慮に関する支援データベースが提供される。
- ⑤今後の大規模な支援データベースの作成・活用に向けた検討課題が整理される。

3 地域連携共通性の形成に向けた活動内容

2018年度は、以下の内容により研究が進められている。

1) 研究シーズの共有と情報の発信

健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの支援に関連して、各専門の研究領域におけるこれまでの成果を共有するための自主セミナー(公開学習会)を開催している。自主セミナーは地域に広く公開し、セミナーを通して情報を発信することとし、本学院生や地域の小中学校、特別支援学校にも参加を呼びかけている。

本年度に開催した自主セミナーは以下の通りである(2019年1月11日現在)。

【第1回自主セミナー】

- ①テーマ 学校における健康管理
- ②報告者 上越市教育委員会学校教育課
指導主事 大日向仁代
- ③参加者 23名
- ④参加者の反応(抜粋)
 - ・学校における対応、子どもの現状と課題がしっかり考えられていることがわかりました。しかし、学習面でのケアなど、問題があることもわかった。(大学院生)
 - ・市内の食物アレルギーの実態、個別の支援計画について参考になった。(地域の学校の教員)
 - ・病気をもつ子どもについての情報の共有状況、学校看護師について知ることができた。(大学教員)
 - ・通常校における健康管理に配慮の必要な子の在籍状況や対応状況が参考になった。(大学教員)
- ⑤明らかにされた検討課題
 - ・特別な配慮を必要としている子どもと回りの子どもとの関係の作り方。
 - ・その際の子どもの学年(年齢)への配慮の仕方。
 - ・指導表の実際の使い勝手の検証。
 - ・情報共有と個人情報の保護に関する対応のあり方。
 - ・支援の際の認知状態(発達障害など)への配慮。

【第2回自主セミナー】

- ①テーマ 特別支援学校における医療受診支援～地域社会で健康な生活を送るために～
- ②報告者 新潟県立高田特別支援学校
養護教諭 足田真智子
- ③参加者 21名
- ④参加者の反応(抜粋)

- ・地域の医療機関との連携において、養護教諭が主導する形で個別の指導計画を組み込んでいくというお話しを聞き、連携のシステムとして確立されているのだなと思いました。校内における養護教諭の立場が分かりました。(大学院生)
 - ・地域の医療機関への理解・啓発活動で、意外と医療側が関心をもって取り組んでくださるということがわかった。(大学院生)
 - ・医療にかかるための事前の練習について、具体的にどのような研究がなされているかを知れたこと、受診機関との連携について知れたことは参考になった。(大学院生)
 - ・連携の大切さについて、今回は支援学校と医師の連携で、学校側でいろいろな準備や指導が行われていた。医師側はどのような受け入れ体制・準備をしているのか、もう少し深く聞きたいと思った。(大学院生)
 - ・障害のある子どもが医療にかかるための研究を知ることができてよかった。(地域の学校の教員)
 - ・先生方がいろいろと工夫されていることが伝わってきました。受診練習にもコツがあると思われます。うまくいくためには、そのコツが外に伝えられると良いと思いました。(大学教員)
 - ・障害児の医療受診への苦勞、苦心の実態がよくわかりました。(大学教員)
 - ・特別支援学校で医療受診支援が手厚く行われていることをはじめて知った。(大学教員)
 - ・特別支援学校での受診支援の実態、医療機関との連携の実態、診察における工夫について学べた。(大学教員)
 - ・くり返しあきらめずに支援していくことについては、どのような対象を問わず、ケアとして共通であることが再認識できました。(大学教員)
- ⑤明らかにされた検討課題
- ・障害のある子どもの受診困難な実情の理解。
 - ・健診受診スキルの共有。
 - ・学校における受診スキル習得のための学習の工夫。
 - ・特別支援学校における地域のセンター的機能の内容としての位置付け。

【第3回自主セミナー】

- ①テーマ 学校保健で育む12年間の育ち～附属三校園の学校保健計画を通じて～
- ②報告者 上越教育大学附属学校園
養護教諭 加藤喜美江・猪又智子・室橋由貴
- ③参加者 22名
- ④参加者の反応(抜粋)
 - ・三校園で行われている中学校、小学校、幼稚園での合同の活動は、子どもたちにとっての重要なピアサポートの機会になっているのだと感じました。学校保健活動の中の「健康教育」「健康相談」「組織活動」といったそれぞれがつながり合っていると同時に、園→小→中でのつながりや家庭とのつながりなど、多くの連携が重要なのだと、大変勉強になりました。(学部学生)
 - ・学校保健委員会が三校で一緒に行っていること、そしてそこで情報共有をしたり合同でのグループワークなどを

行っていることが参考になりました。合同で行っている所があることをはじめ知り、また合同で行うことの利点も知ることができました。(学部学生)

- ・附属三校が合同で行っている学校保健活動が、毎年それぞれ工夫されており、参考になりました。(学部学生)
- ・幼・小・中の一貫した取組について、よくわかりました。多岐にわたって業務を行っていらっしゃる事がわかり、とても参考になりました。(大学院生)
- ・校園の協働のとりくみなど、国立と公立のちがいもわかりました。このような連携、協働のとりくみは、問題意識をもつ養教さんの提案から始まっていると思います。養教さんが要だと思います。(大学教員)
- ・幼稚園から中学校まで連携して保健指導ができることのメリットを学びました。各年代間の交流はとてもよいと感じました。(大学教員)
- ・三校の取り組みについて、具体的な例によって示されていて、とてもよくわかりました。養護教諭の先生ならではの健康の視点や、子どもへの関わり方について参考になりました。(大学教員)

2) 新たな情報の収集

学校における健康管理に関連する主要な学会のひとつである「日本学校保健学会」に参加した。今年度は、2018年11月30日～12月2日に大分市で開催された。本学会において最新情報の収集が図られており、その内容は、後日、自主セミナーにおいて報告された。

3) ニーズ調査、事例収集、成果公表方法に関する予備的検討

上越地域の小中学校を主な対象として2019年度に実施予定の健康管理に関するニーズ調査及び事例収集に向け、調査の内容と方法、事例収集の実施方法等について予備的検討を行う予定である。

追記

本研究は、2018年度～2019年度上越教育大学研究プロジェクト「健康管理に特別な配慮を必要とする子どもの学級担任を支援するための『地域連携コモンズ』形成の試み」(研究代表者：大庭重治)の補助を受けて実施している。

なお、本稿に記載した第1回から第3回までの自主セミナーの内容は、本巻内において稿を改めて紹介する。